

グラフで見る景気概況

【日本経済の景気概況】

景気は緩やかな回復基調が続いている。4～6月期の実質GDP成長率は前期比+0.6%となった。個人消費と設備投資のプラスが続き住宅投資や公共投資のマイナス幅も縮小しており、内需寄与度は+0.4%となった。外需も輸出が底堅く推移し輸入が減少したことから、+0.2%とプラス寄与となった。

個人消費については、消費性向の高止まりと所得の改善基調を背景に、4～6月期の実質消費支出は前期比+0.3%と底固く推移。ただ、今後は社会保障負担増加の影響なども予想され、消費の伸びは抑えられる。

企業部門については、6月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は前月比+2.4%と2ヶ月連続のプラスとなり、4～6月期でみると前期比+3.4%となった。見通しでは7～9月期もプラス（+2.2%）が見込まれており、機械受注は目先堅調な推移が見込まれる。設備投資は年内は回復を続けそうである。

また、7月の鉱工業生産は前月比+0.5%となった。予測指数によると7～9月期は前期比+2.5%となり、6四半期ぶりにマイナスに転じた4～6月期から一転、再びプラスとなる見込みである。在庫率が依然として低水準で推移しており、生産は回復基調を維持している。

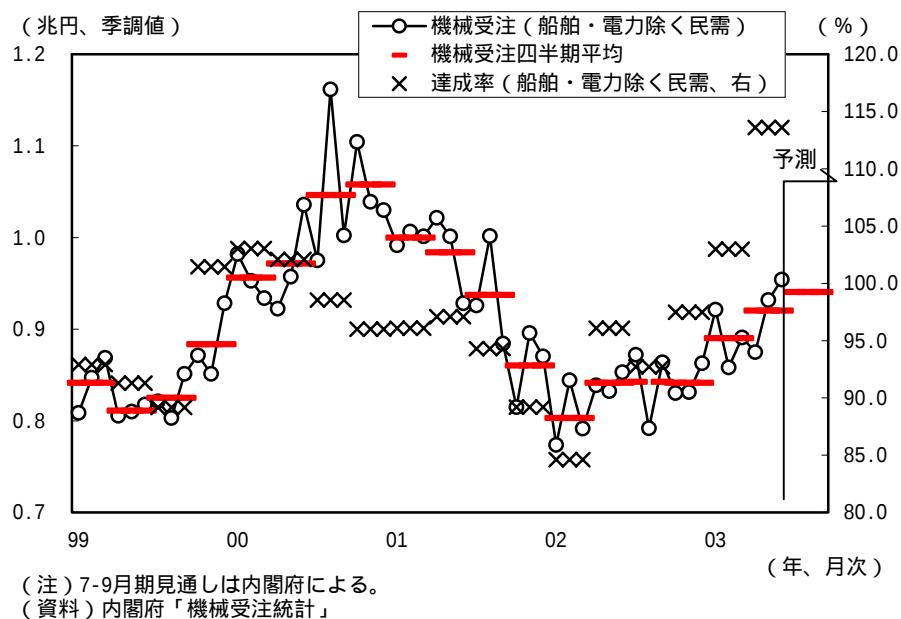
外需については、6月の経常黒字は減少に転じた。イラク戦争やSARS流行により減っていた海外旅行がやや持ち直したため、最近の経常黒字拡大の主因であったサービス収支の赤字幅縮小に歯止めがかかっている。貿易黒字が横ばい圏で推移する中、今後も海外旅行は徐々に回復すると見込まれ、当面、経常黒字は増えにくいと思われる。

なお、雇用については、雇用者数が3ヵ月連続して前年水準を上回ったものの、増加ペースは鈍化している。ただし、7月は企業の雇用スタンスを示す新規求人倍率が4ヵ月ぶりに上昇するなど、雇用者数がこのままマイナスに転じて減少幅を拡大させていく状況ではない。



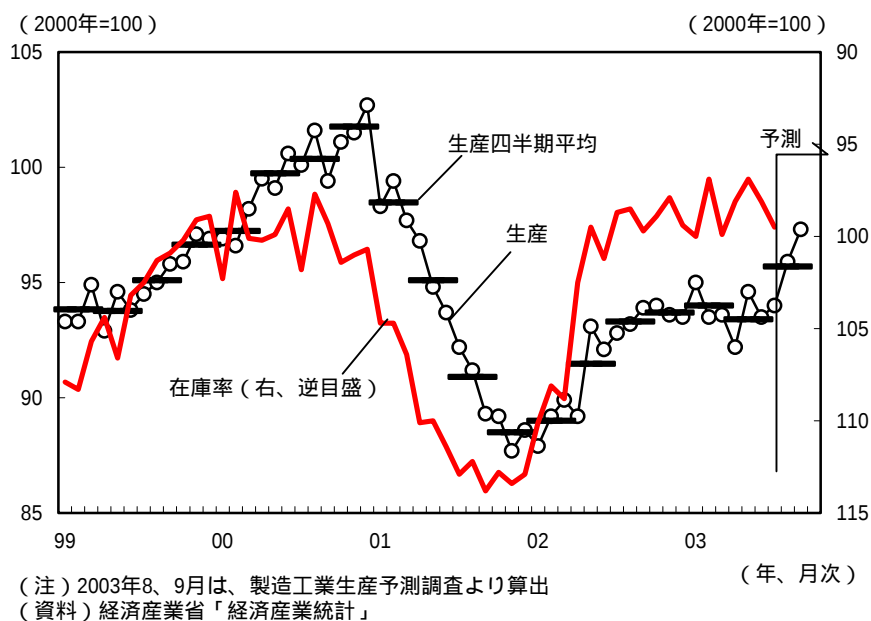
3．設備投資

- ～ 6月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は前月比+2.4%と2ヶ月連続のプラスとなった。4～6月期は前期比+3.4%となり、見通しでは7～9月期もプラス（+2.2%）が見込まれている。達成率が上昇傾向にあることもあり、機械受注は目先堅調な推移が見込まれる。



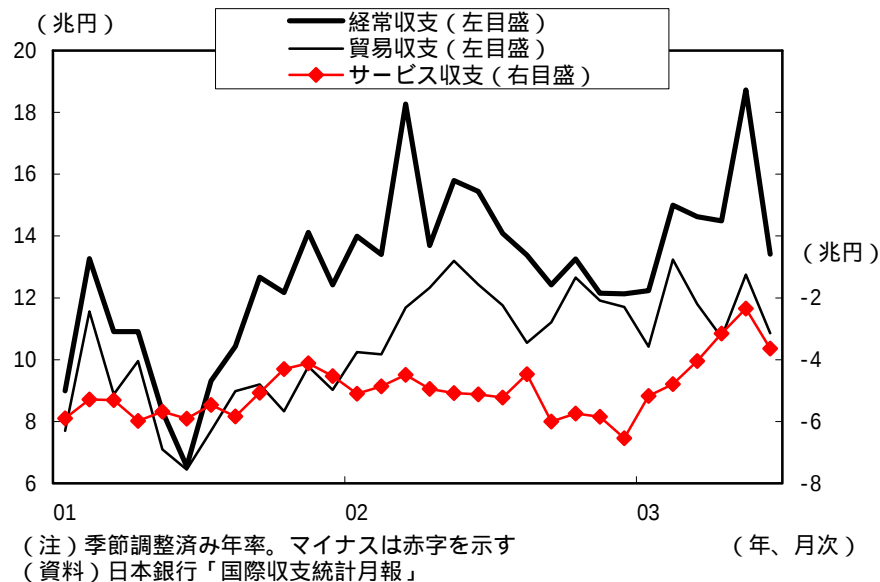
4．生産

- ～ 7月の鉱工業生産は前月比+0.5%となった。予測指数によると7～9月期は前期比+2.5%となり、6四半期ぶりにマイナスに転じた4～6月期から一転、再びプラスとなる見込みである。在庫率が依然として低水準で推移しており、生産は回復基調を維持している。



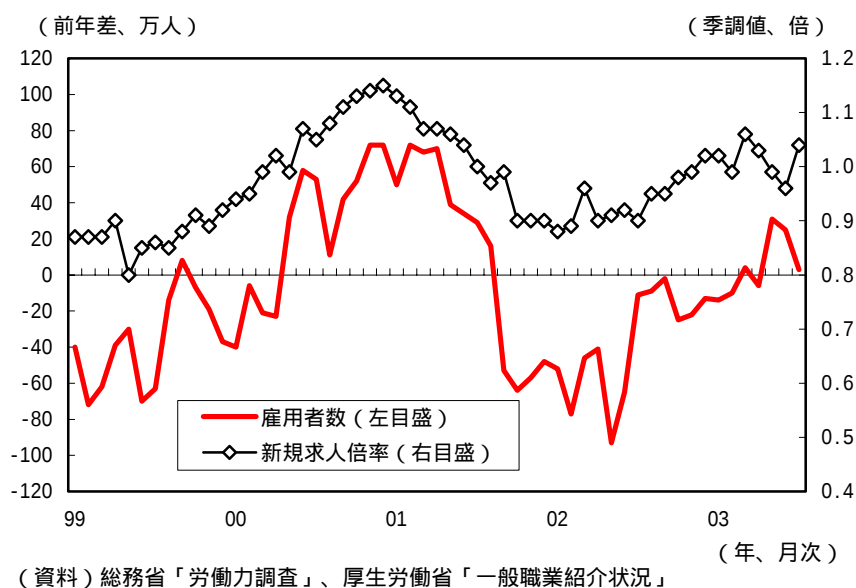
5．外需

- ～ 6月の経常黒字は減少に転じた。イラク戦争やSARS流行により減っていた海外旅行がやや持ち直したため、最近の経常黒字拡大の主因であったサービス収支の赤字幅縮小に歯止めがかかっている。貿易黒字が横ばい圏で推移する中、今後も海外旅行は徐々に回復すると見込まれ、当面、経常黒字は増えにくいと思われる。



6．雇用

- ～ 雇用者数が3ヵ月連続して前年水準を上回ったものの、増加ペースは鈍化している。ただし、7月は企業の雇用スタンスを示す新規求人倍率が4ヵ月ぶりに上昇するなど、雇用者数がこのままマイナスに転じて減少幅を拡大させていく状況ではない。



金利・為替動向

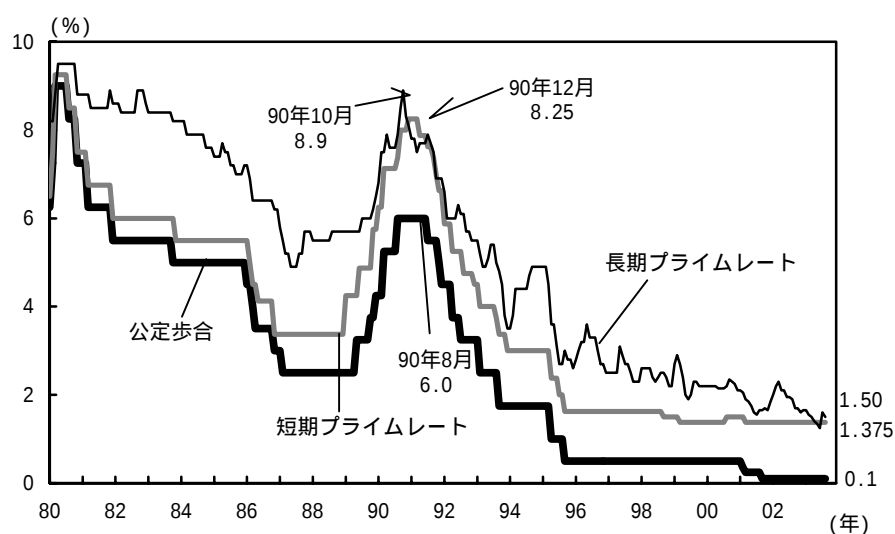
(注)足元の数値は、日本市場は9月1日、米国市場は8月29日（9月1日休場のため）時点

長・短期プライムレート、公定歩合は月末値、それ以外は月中平均の数値を使用して作成

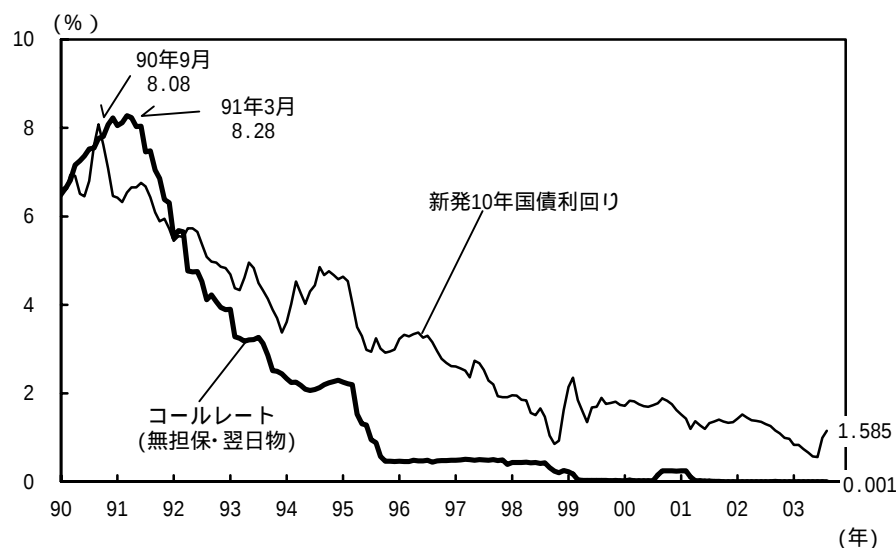
短期プライムレートは、都市銀行が自主的に決定した金利のうち、最も多くの銀行が採用した金利

○ 国内金利

- ～ 日銀は8月7、8日の金融政策決定会合で、当座預金残高の目標を「27～30兆円程度」に据え置き、現状の金融緩和策を維持することを決定した。足元の当座預金残高は29兆円前後で推移している。長期プライムレートは、7月の金利上昇局面の際に1.60%まで引き上げられたが、長期金利が8月上旬には一旦落ち着いたことから、8月8日に1.50%に引き下げられた。

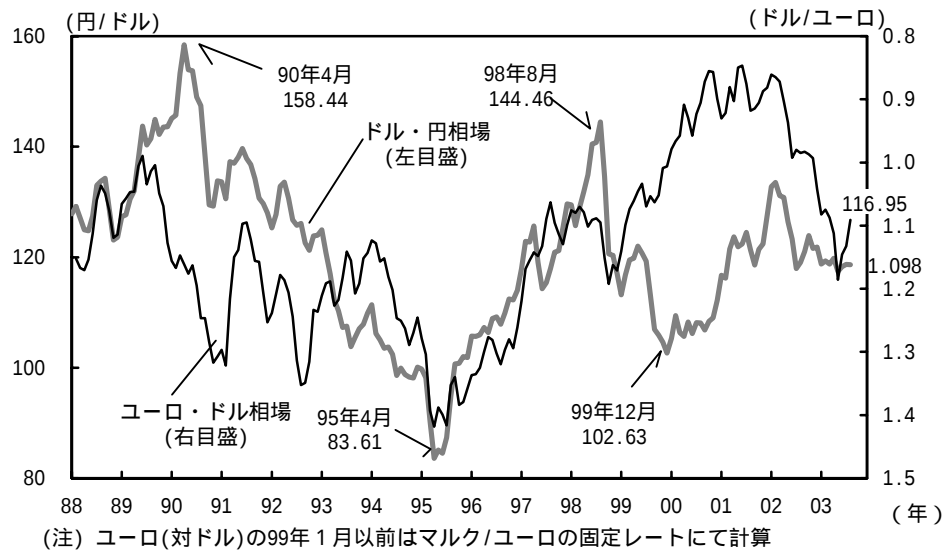


- ～ 無担保コール翌日物金利は、日銀の金融緩和策を背景に低位安定している。長期金利は、8月上旬は0.9%前後の推移が続いた。しかし、中旬以降は内外景気の回復期待や株価の上昇を受けて長期金利も上昇、足元では1.5%台での推移となっている。



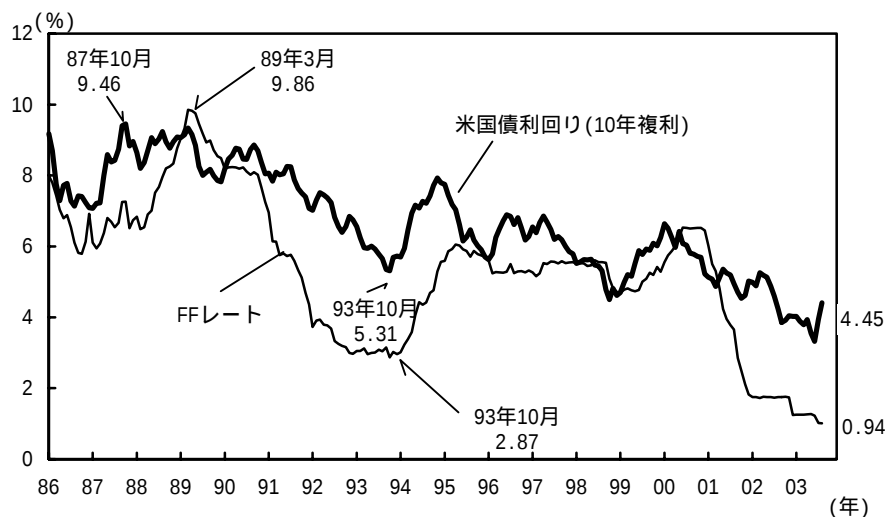
○ 為替相場

- ～ ドル円相場は、1ドル = 120円を挟んだ横ばい圏で推移していた。しかし、8月中旬以降日本で景気回復期待から株式市場が堅調に推移するようになると円高圧力が強まり、足元では117円を切る水準まで円高が進んでいる。ユーロは、域内景気の相対的な弱さから弱含みの展開が続いている。



○ 米国金利

- ～ 米連邦準備制度理事会 (F R B) は8月12日の連邦公開市場委員会 (F O M C) で、F F レートの誘導目標水準の据え置きを決定 (1.00%)。長期金利は、市場参加者が夏休みで少ないこともあり、狭いレンジでの推移となった。



本レポートに掲載された意見・予測等は資料作成時点の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。